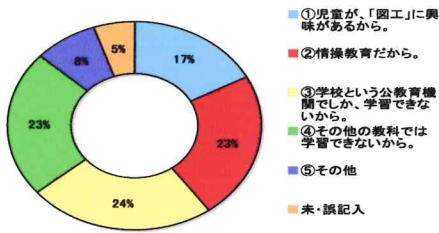
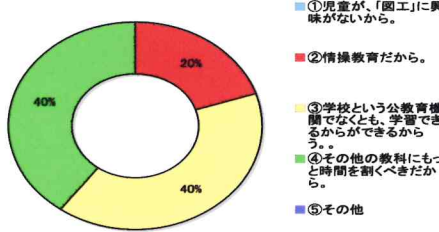


理由への記述に対し「専門的な教科なので専門性のある方にやって頂きたい」と答えています。さらに、協力者に対し回答理由を選択制で質問しています。

(i) 欄4において「①及び②」を選択された方に、その理由についての質問です。(複数回答可)

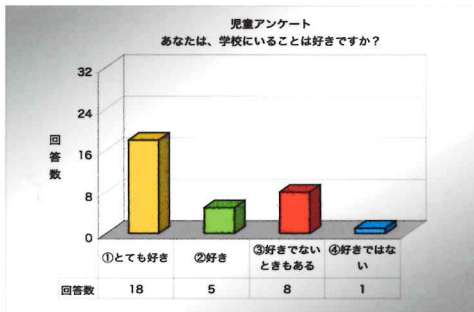


(ii) 欄4において「③及び④」を選択された方に、その理由についての質問です。(複数回答可)



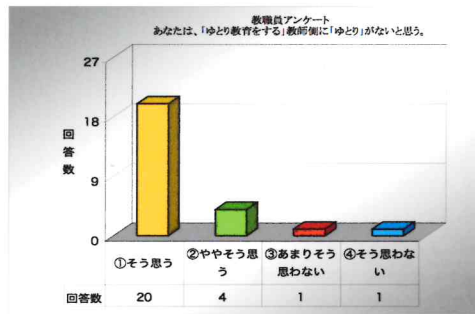
(i)の結果から、「図工」「美術」の教科が児童にとって「学校」でしか学ぶ機会がなくその他の教科では学習できないものであると協力者の方は答えていることが分かります。この回答は全体の約94%を占めています。一方、(ii)の結果から、「美術」「図工」の教科が「学校」でなくても学ぶ機会があり、他の教科にもっと時間を割くべきであると答えていることが分かります。この回答は全体の4%程度ですが、実際に「学力テスト」やプロジェクトへの時間数を懸念する声もあったことから理解を求めていかなければならない回答内容だと思います。

さて、私は「学校」という場にこだわってプロジェクトを行いました。その学校を今回プロジェクトに参加した児童はどのように思っているのでしょうか。児童に「あなたは学校にいることは好きですか？」と質問しました。

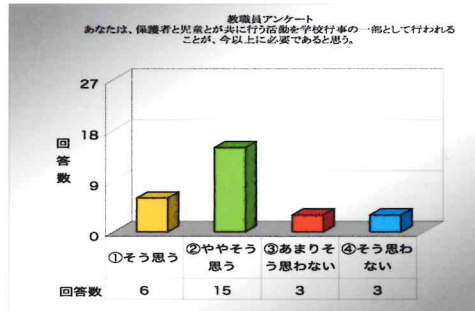


すると、約72%の児童が「とても好き」「好き」と答えています。その一方「好きでないときもある」「好きではない」と答えた児童は28%でした。この

結果からも分かるように、決して「学校」とい場が児童にとっていつでも最良の場所ではないということです。当然のことのようで、私はこの点に注目しています。「学校」は「行かなければならない場所（義務教育）」とされている現代社会では児童は「学校」に集わなければならないのです。そこでは、自由と制約の中に学び「教科」を通して社会で生きる術を身につけ導かれていきます。その「場」こそどんな人間にも平等に与えられた「出会いの場」だと思います。現代の社会は、多様な家庭環境があり、多様な人間性があり、多様な物質環境があり・・・と「多様な」社会であると言われています。そんな社会であるからこそ「学校」という場が重要になってくるように思います。しかし、「学校」関係者にはこの「出会いの場」「学校重要宣言」は大きなプレッシャーとなっていることも確かです。または、「家庭から学校への責任転換」「学校への教育の押し付け」であると批判を受けることにもなります。学校も厳しく多忙なスケジュールをこなすのに必死なのです。以下は、教職員に「あなたは、『ゆとり教育をする』教師側に『ゆとり』がないと思うか。」と質問した結果です。



約89%が「そう思う」「ややそう思う」と答えています。とても高い割合で教職員は「ゆとり」がないと答えていることが分かります。さらに、「あなたは、保護者と児童とが行う活動を学校行事の一部として行われることが、今以上に必要であると思うか」と質問したところ



「そう思う」という回答は約11%、「ややそう思う」という回答は最も多く約56%でした。つまり、これ以上「学校」の負担を増やしては欲しくないとい

う見解であるように感じます。この結果から判断できることは、「図工」「美術」はもちろん重要ではあるが、これ以上の教科指導を「学校」に求められるほど「学校にはゆとりがない」ということではないでしょうか。しかし、協力者の意見には「図工」「美術」は学校でしか触れる機会が少ないという意見が多くありました。そこで、「図工」「美術」の教科を重視しながら児童や協力者の期待に応え、教職員の不安とサポートができればより一層「図工」「美術」の教科指導が充実したものになるように思います。

教職員、児童、保護者、地域の人々及びアーティストとのコラボレーションを目指して。

私は、これからもダイレクトパフォーマンスをかかげ、自ら「学校」や「地域」に向き「図工」「美術」の教科指導の補助をしたいと思います。地道にそれを実現していくことが、今回この「夢のはしごをかけよう」プロジェクトを企画した私の最大の責務であると思うのです。今回のアンケートでは、対象者に対する意識調査ばかりではなくたくさんの励ましを頂いたように思います。自由記述にたくさんの回答を頂いたことから、「図工」「美術」教科への関心の高さが示されているように思います。記述の一部を、教職員アンケート、協力者アンケート、児童アンケートそれぞれにご紹介したいと想います。

今回実施した「夢のはしごをかけよう！」プロジェクトの授業に関するご意見や感想がありましたら、ぜひお聞かせ下さい。(教職員アンケートより)

- (ア) スケールの大きな経験は子どもを大きく成長させる。
- (イ) 大規模校なので、全体には把握されてなかった。意図がつかめなかった。
- (ウ) 子どもたちにとっては一生に一度あるかないかの経験なので素晴らしい！と思いました。
- (エ) 子どもにとって、とてもよい経験になり良かったが、もっとあたたかい時期の方がよいと思う。
- (オ) みんなから見える場にもっと早くもっと長く展示させてやりたかった。迫力があってよかった。
- (カ) 子どもの目にも具体的に夢を形にできたこと素晴らしいと思います。
- (キ) やってみたい。子どもがうらやましい。
- (ク) 担任だけでは実現する事が難しかった授業であると思う。ただ造形遊びをするだけでなく子ども自身を高める活動でもあったように思う。